

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2020年2月21日

No.10

会社：特積みなど戻ってきているので回復の兆しはある
組合：収入は計画通りに進んでいる。次期ダイヤ改正は収入減の改正であり、組合員の待遇面の改善が優先課題である

～2020JR総連春闘 第2回交渉報告～

中央本部は、本日第2回春闘交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【営業関係】

- (1) 1月期のコンテナ収入は88.7億円、車扱は13.0億円、合計で101.7億円である。コンテナ輸送量は農産品が好調だった一方、紙・パルプや化学工業品等の不振により前年比96.5%、車扱輸送量は暖冬の影響により石油輸送が低調となり車扱全体で前年比91.1%である。
- (2) 昨年の西日本豪雨災害の教訓から企業のPCB対策が問われており、船舶輸送等に輸送モードを切り替えている企業の鉄道貨物輸送への回帰は難しいが、新たな荷物による収入確保に全力をあげている。

【事業開発部門】

- (1) 年初計画からほぼ計画通りに進んでいる。磐田分譲マンションはほぼ計画通りに販売が進んでおり、旧竜華寮のダイワハウス事務所・ショールームは本日より賃貸が開始されている。
- (2) 今月2月に竣工予定の東京レールゲートWEST賃貸開始による収益計上等により、1月期改定計画の達成を見込んでいる。
- (3) 2020年11月着工予定の東京レールゲートEASTは入札が終了し、11月の着工にむけて用地に残されていた複合施設の解体を行なっている。

【組合の主張】

- ① 収入は計画通りに推移しており、運賃改定効果を含めて収入確保はできていると認識している。1月期改定においても経常利益の黒字を計画しており、十分な支払い能力はあると考える。
- ② 家族手当が基準内賃金から外されて収入が目減りしている組合員がいる。申し入れ内容について信義誠実の原則をもって議論を進めること。
- ③ 引き続き収入確保に奮闘する組合員に報いるよう、誠意ある回答を求める。

【会社の回答】

- ① 収入計画は年度初計画より下方修正しており、景気動向を含め引き続き厳しい現状である。
- ② 家族手当については、期末手当交渉の中でも議論を行ってきたが、改めて申し入れを受けたので議論はしていきたい。
- ③ 組合の主張について真摯に受け止め、指摘について社内で議論を行ない、回答指定日にむけて今後の交渉を積み重ねていきたい。

中央本部は、「家族手当を基準内賃金に組み込むことなど、組合員の切実な要求を申し入れしている。次年度も鉄道事業部門の黒字化を計画しているのであれば、それを担う組合員に投資するべきである。」ことを主張し、交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、2月28日（金）です。